

2010年9月3日

環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦

担当ワーキンググループ主査 原嶋 洋平

セネガル国 ポドール灌漑地区整備事業計画準備調査

(協力準備調査(無償))

最終報告書案に対するコメント

コメント案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2010年8月30日(月) 15:00~17:00
- ・ 場所：JICA本部1階 110会議室
- ・ ワーキンググループ委員：原嶋委員、佐藤委員、村山委員、柳委員、福田委員(欠席)
- ・ 議題：セネガル国 ポドール灌漑地区整備計画に係る最終報告書案についてのコメント案作成
- ・ 配付資料：1)セネガル国 ポドール灌漑地区整備計画準備調査助言委員会資料
2)WG会合説明用パワーポイント資料
3)スコーピング案に対する助言への対応表
4)事前コメントに対する回答
5)コメント(佐藤委員より当日配布)
- ・ 適用ガイドライン：JICA環境社会配慮ガイドライン(2004年4月)
(助言委員会設置要項第9項に基づき、助言委員会が審査会に代わり報告を受ける)

全体会合(第3回委員会)

- ・ 日時：2010年9月3日(金) 13:30~
- ・ 場所：JICA本部1階 113会議室

上記の会合に加え、メール審議によりコメントを確定した。

セネガル国 ポドール灌漑地区整備計画
最終報告書案に対するコメント

1. ステークホルダー協議の結果から、農薬の使用、保存、管理による悪影響を懸念する意見が複数にわたって出されているため、必要な対策を検討すること。
2. 肥料の中で通常使われる硝酸性窒素（硝酸塩）に関しては、残留基準を定めるなど、適切な施肥量を農業技術者による指導を徹底すること。
3. 肥料の土壌残留および地下浸透による健康への悪影響を事前に抑止する対策を具体的に講じるよう徹底すること。
4. 農業廃棄物（袋、瓶等）の適切な回収および野焼きの禁止を指導すること。
5. セネガル川への排水による内水面漁業およびジュッジ鳥類国立公園の自然環境への悪影響に配慮すること。
6. 灌漑開発では、稲作、畑作、野菜の適正品種の選択、栽培方法の改善、土壌改良技術の開発、適正農機の開発等が課題になることが少なくないので、本事業においてもこれらに配慮すること。
7. 営農に関するグッドプラクティスを普及するよう努めること。
8. 女性グループおよび社会的弱者をステークホルダーとして位置づけ、本事業の協議プロセスに関与させること。
9. ステークホルダー協議で指摘されているとおり、本事業に伴う環境社会影響への緩和策は、セネガル川デルタ地帯・セネガル川ファメレ川流域整備公社 (SAED) が中心となるとともに、他の機関との有機的な連携による体制の構築を促進するような取り組みを支援すること。
10. 米国ミレニアム・チャレンジ・コーポレーション (MCC) の支援によるセネガル・ミレニアム・チャレンジ・アカウント (MCA) の灌漑地区開発事業と本事業との複合的な影響に配慮すること。

以上